

福祉分野におけるキャリア形成支援ツール開発に 関する研究 その1

Research on Career Development Support Tool in Care Work Field Part 1

根本 曜子 川村 博子 古川 繁子 漆澤 恭子

昨今の大学・短大等においてはコミュニケーションに困難のある学生が増えているが、その特性に即した教育方法は未確立である。平成25～26年度にかけて知的障害者等の介護に係わる聞き取り調査、就労実態のアンケート調査を行った結果、知的障害を伴わない発達障害者が多数就労しており、就労の現場ではコミュニケーション、対人関係の構築のための技術が必要とされていることが明らかになった。このため福祉分野において必要とされるコミュニケーション力を養成するためのキャリア形成支援ツールとしてビデオ教材を試行開発するとともにコミュニケーション・対人関係の課題に関するアンケート調査を実施した。

キーワード：キャリア形成支援、コミュニケーション力、教育方法、ビデオ教材、発達障害

1. はじめに

高等教育分野において、コミュニケーションや対人関係に困難のある学生が増えているが、その特性に即した教育方法は未確立であることから、教育プログラムの開発を目的とした研究に取り組むこととした。初年度の研究として知的障害者等の介護分野における就労先進的好事例の聞き取り調査、就労実態のアンケート調査を行い、知的障害を伴わない発達障害者等が多数就労している実態が把握できた。2年目は実際に就労している現場、支援している専門機関等に聞き取り調査を行った結果、就労の現場ではコミュニケーション、対人関係の構築のための技術が必要とされていることが明らかになった。3年目はその結果を踏まえ、コミュニケーション、対人関係に困難のある学生のキャリア形成支援を目的としたビデオ教材の開発の取り組み、その活用について検討することとした。

2. 研究方法

2年目までの聞き取り調査によって明らかになった介護現場で必要とされるコミュニケーション、対人関係構築のための技術等を取り入れたビデオの試

作をし、現場職員と検討を図った。その後、福祉分野の学生を対象にビデオの視聴をしてもらい、登場人物のコミュニケーションの課題に係るアンケート調査を行った。その結果、ビデオ教材の課題を探った。

3. 倫理的配慮

本学研究倫理基準に則り、実施した。

4. 結果

4-1 ビデオ教材の開発

2年目までの聞き取り調査の事例の中からとりわけ職場でのコミュニケーション、対人関係の構築に課題を抱えているものを題材に選びビデオ教材を試作した（アンケートの実施手順は資料1、シナリオは資料2、アンケートは資料3参照）

4-2 現場職員の反応

作成したビデオ教材を就労支援の専門家に視聴してもらい助言を得た。作成時の意図のほかに、指導者向けにも使うことが出来る、むしろ指導者向けのビデオではないかという評価を受けた。

4-3 学生対象へのアンケート調査の実施

本学の学生約319人（短大地域介護福祉専攻1年27名、2年20名、児童障害福祉専攻1年104名、2年92名。大学発達教育学部76名）を対象として平成27年7月、ビデオ視聴の授業を行った。登場人物のコミュニケーションにどのような課題があるかについてアンケート調査を実施した。登場人物は対象者（A子さん）先輩、利用者（Sさん）。調査実施に当たり、筆者らは仮説として、学生は先輩がもっと丁寧な言葉がいい、先輩がもっと優しい表情なら行動の説明ができたと思うなど他者の責任にする一方で、謝るべきだなどAさんの改善を挙げる、と考えた。

4-4 アンケート調査の結果

アンケート調査を集計し、KJ法を使って分析をした結果、課題は大きくAさんの課題、先輩の課題、二人の課題についての三つに分類できた。結果の詳細は以下のとおりである。

	地域 1年	地域 2年	児童 1年	児童 2年	発達	合計 人数
総数	27	20	104	92	76	319
Aさんの言葉の課題	19%	50%	38%	40%	9%	31%
Aさん謝罪 (言葉と態度)	37%	55%	88%	41%	14%	50%
Aさん態度上の課題	52%	75%	90%	53%	38%	63%
Aさん反省できない	7%	10%	16%	17%	28%	18%
Aさん解釈できない	26%	30%	7%	14%	24%	16%
Aさんその他	11%	5%	6%	1%	13%	7%
先輩の表情	19%	0%	3%	10%	4%	6%
わかりやすく工夫 した言い方	41%	10%	52%	54%	21%	42%
先輩の対応 (メモなど)	30%	20%	22%	5%	20%	17%
二人の言葉	4%	5%	1%	10%	8%	6%
二人の温度差	11%	0%	1%	1%	1%	2%
利用者への態度	19%	30%	4%	13%	3%	9%
二人の態度	4%	10%	3%	1%	8%	4%
二人その他	0%	10%	5%	1%	3%	3%

A子さんについては「Aさんがふざけているように見えてしまう」「A子さんへラヘラしない方がいい」などの態度上の課題、「まずは謝った方がいいと思う」「えっ」ではなく、「すみません忘れました」といった方がいい」などの言葉と態度で謝罪すべき、「すぐに「忘れてしまいました」と相手に伝えた方がいい」「Aさんも何をしたらよいか聞いた方がいい」などの言葉の課題が多く挙げられた。

先輩については「最初からAさんに対して厳しい口調で問うのはよくない」「先輩はもっと具体的に注意や指摘をすべき」などの指導方法についての指摘が多かった。

また、2人については「Sさんがいる前でこういう会話をしない」「Sさんがいるところで着替えがないということをお話さない方がいい」などの利用者Sさんへの態度が挙げられた。

5. 考察

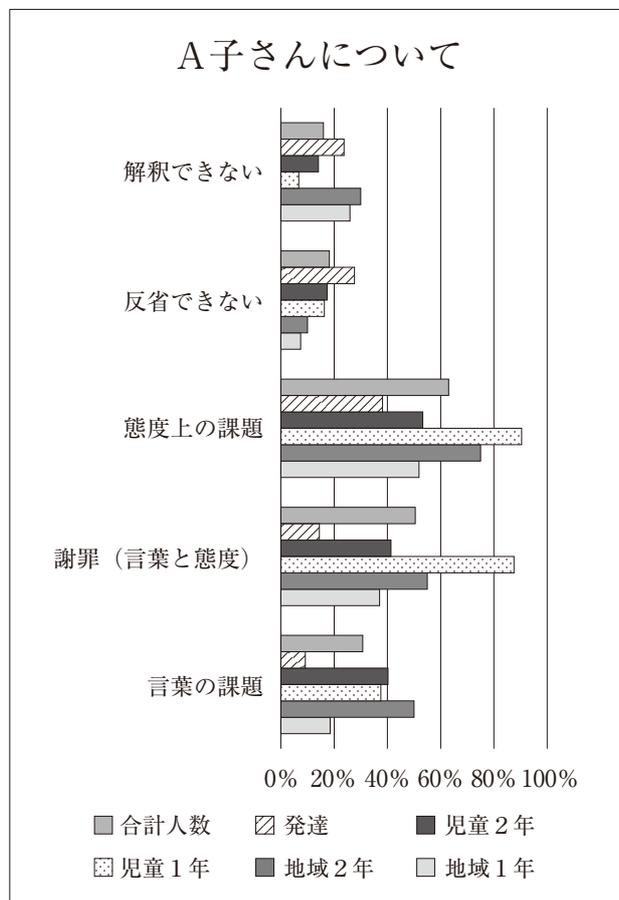
アンケート調査の結果から、学生からはコミュニケーション、対人関係の問題として、Aさんについては意思表示がうまくできない、質問・報告ができない、反省の態度や謝罪できないなど言葉の課題が多く挙げられたが、相手の感情を理解できない、ことばを字義通りに理解してしまう、場にふさわしい言動ができないなどの発達障害の特性による課題について挙げた者は少なかった。Aさんの行動はこのような特性に起因するのではと考えるには至らなかったようだ。

福祉分野に就労する養成校卒業間もない若年者の中にはコミュニケーションや対人関係に困難のある者が多い。養成校においては学校から職場への円滑な移行のために在学時からこのような特性を持つ学生への支援を行う必要がある。

先輩については、指導方法に関する課題が多く指摘された。発達障害のある者に対してはその特性を理解した上で適切な支援を活用し、必要な情報を正しくわかりやすく伝えるための職場の同僚や上司の配慮が不可欠である。事例の場合では、その支援としてメモによる視覚的支援、復唱等による聴覚的支援、言外の意味の説明などが考えられる。

人手不足の現場では知的障害や発達障害のある者の就労が増加している状況下、就労後比較的短期間

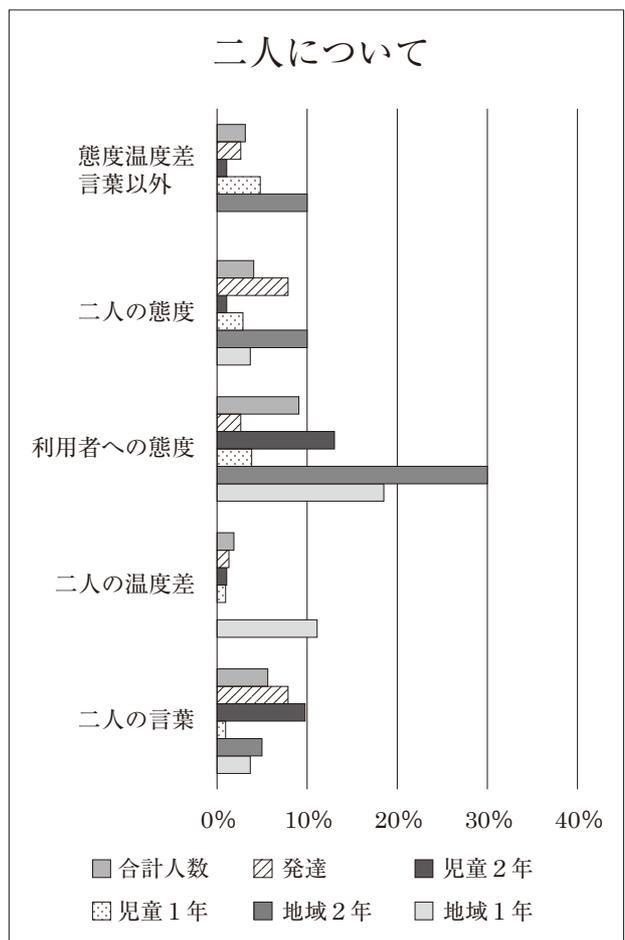
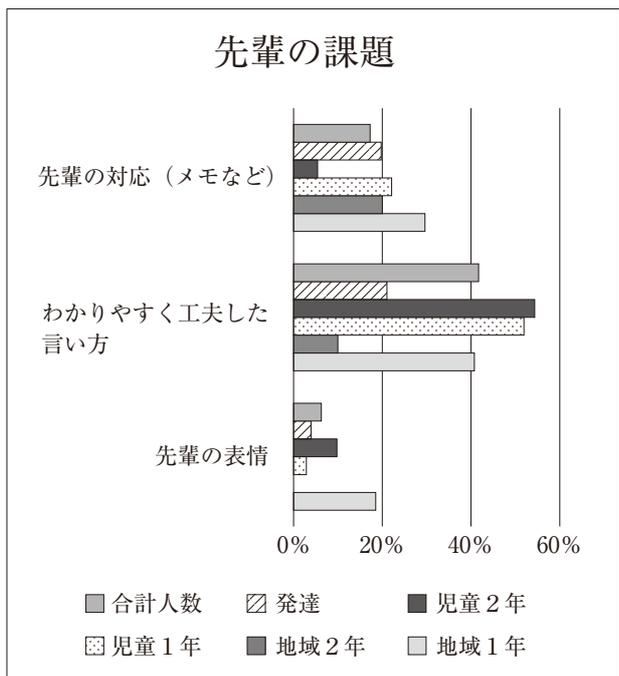
でリーダーとしての役割を期待される学生が就学中に発達障害等の特性を理解しておくことも今後必要であると考えられる。



さらに、今回、仮説として全く予想していなかった2人の課題として利用者への配慮が欠けているという指摘は福祉系大学・短大の学生ならではの指摘であり、日頃の教育の効果が出ていると推察される。

今回開発したビデオ教材は短編のものに過ぎず、今後、福祉分野で必要なコミュニケーションや対人関係スキルを習得するビデオの作成し、さらに学生向けの解説書を作成する予定である。

コミュニケーションや対人関係面に配慮を必要とする学生への支援は個人個人の特性に応じて行う必要がある。ビデオ教材の開発やそれらを活用したロールプレイングなど集団での対応には限界があり、より一層きめ細かな個々の特性に応じた支援の検討が必要とされることは言うまでもない。その一方、配慮を必要とする学生が自分の課題を認識せず、支援を拒む場合も多い。今後は、そのような学生への支援の方法の検討や個々の特性を把握するためのツール等の開発が必要である。



6. 終わりに

今回、コミュニケーションや対人関係に困難のある学生のキャリア形成支援を目的としたビデオ教材を作成し、その活用について検討した。その結果、今回作成したビデオは指導者のコミュニケーションや対人関係に困難のある職員の理解や指導方法の習得には有効であることがわかった。その際解説書や手引き書が必要である。これらは、今後ますますコミュニケーションや対人関係に困難のある職員の採用が多くなるであろう、福祉分野の指導者の特性のある職員理解に役立つものと考えられる。そのためビデオ教材と解説書の開発、作成が今後の本研究（「キャリア形成支援ツール開発研究」）の一方向であることがわかった。

一方、福祉分野で働こうとする学生全般にビデオ学習をしてもらい、将来、同職種で、指導的立場で働く中で応用したり、職員指導に活用してもらう目的としても開発研究することが必要と考える。

コミュニケーションや対人関係に配慮を必要とする学生への支援は考察でまとめた通りであり、今後の研究の主方向となる。

参考文献

- 1) (独) 高齢・障害・求職者支援機構障害者職業総合センター 調査研究報告書N.112「若年者就労支援機関を利用する発達障害のある若者の就労支援の課題に関する研究」2013.3
- 2) (独) 高齢・障害・求職者支援機構障害者職業総合センター「発達障害者就労支援レファレンスブック」2015.3
- 3) 日本介護福祉教育学会, 2014, 「第21回日本介護福祉教育学会プログラム・発表要旨集」

本研究は植草学園短期大学の共同研究の助成を得て行われた。

資料1：アンケートの実施手順

DVD使用授業における説明と授業実施手順

①最初の説明

これからご紹介するのは特別養護老人ホームにおける入浴シーンです。

登場人物を紹介します。

車いすに乗っているのが利用者のSさんです。
次に介護福祉施設の養成校を卒業してこの施設に就職して半年ほど経ったA子さんです。

3人目は経験年数5年の女性の先輩です。

AさんはSさんの入浴時に居室までお迎えに行った時、着替えを持って来るのを忘れてしまいました。

②DVD視聴

〈パターン1：シーン1だけを2回見る〉

その後、アンケートの記載に。

〈パターン2：シーン1～3を1度通して見た後にシーン1に戻る〉

その後、アンケートの記載に。

資料2：シナリオ

シーン1: 脱衣所で待つ先輩のところへ、車いすに乗った利用者のSさんをA子さんがお連れしている。

○先輩:「A子さん、持ってきてと言ったSさんの着替え一式どうしたの?」

○A子:「……。」(しまったという顔をする。)

○先輩:「もう、いいです。」

○A子:「良かったんですね。」(ニコニコと)

○先輩:「……。」

資料3

コミュニケーション・アンケート 植草学園短期大学共同研究
「介護分野におけるキャリア形成支援ツール開発に関する研究」

1. このビデオを見て、あなたはどのように感じましたか?
シーン1の先輩とA子さんのコミュニケーションで工夫した方がいいと思ったところを箇条書きであげてみましょう。

・

・

・

・

・

2. 先輩の「A子さん、持ってきてと言ったSさんの着替え一式どうしたの?」の質問に対して、どう答えるのがよかったですか。

A子「

3. 先輩の「もう、いいです。」に対して、どう答えるのがよかったですか。

A子「

(注) 調査結果の公表に関しては、統計的に処理された集計結果のみを使用し、個人が特定されるような形式で公表されることはありません。